# 授　業　概　要

| 科目名<br>人間関係とコミュニケーション | 授業の種類<br>講義 | 授業担当者<br>南雲　陽子（実務経験者）・佐藤　和也（実務経験者） |
|---|---|---|

| 授業回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| １５回 | ３０時間（２単位） | １学年・通年 | 必修科目 |

［授業の目的・ねらい］

介護実践のために必要な人間の関係性を理解し、関係性に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　自己覚知と他者理解の重要性がわかる。

２　コミュニケーションの意義と、さまざまなコミュニケーションの方法がわかる。

３　援助関係を形成する基本的な方法がわかる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

人間関係と心理　＜佐藤　和也＞

１　自己覚知

２　他者理解

３　自己開示とラポール

４　グループダイナミクス

対人関係の形成とコミュニケーションの基礎　＜南雲　陽子＞

５　コミュニケーションの意義・目的

６　コミュニケーションの特徴・過程とコミュニケーションを促す環境

７　コミュニケーションを促す環境

８　対人関係とストレス

コミュニケーション技法の基礎

９　言語的コミュニケーション

１０　非言語的コミュニケーション

１１　パーソナルスペース

１２　受容、共感、傾聴

１３　バイステックの原則　＜佐藤　和也＞

１４　組織におけるコミュニケーション

１５　終講試験（解答・解説）

| ［使用テキスト・参考文献］ | ［単位認定の方法及び基準］ |
|---|---|
| 最新　介護福祉士養成講座　1<br>「人間の理解　」第2版　中央法規出版 | 規程の3分の2以上の出席であり、試験で60点以上の者に単位を認定する。 |

# 授　業　概　要

| 科目名 | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| レクリエーション援助技術 | 講義・演習 | 西脇　秀和<br>（実務経験者） |

| 授業回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| １５回 | ３０時間（１単位） | １学年・通年 | 必修科目 |

［授業の目的・ねらい］

１　レクリエーション活動の社会的意義を理解する。

２　現代社会の中でのレクリエーション支援の必要性を理解する。

３　レクリエーション事業の計画・実践・評価について習得する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　レクリエーション活動の社会的意義を理解し、支援活動の必要性を考えられる。

２　レクリエーション事業の計画・実践・評価についての力を養う。

３　レクリエーションに関する学習を通じて、人間関係の形成の意味を理解し、コミュニケーションの基礎能力を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

Iレクリエーション概論

1-①　レクリエーションという言葉の主旨

1-②　レクリエーション支援の目的と方法

1-③　レクリエーション・インストラクターの役割

II　楽しさと心の元気づくりの理論

2-①　レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、及び心の仕組みを根拠にした支援

2-②　楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、及び社会的な仕組み

3-①　ライフステージと心の元気づくり

3-②　地域のきずなづくりとレクリエーション

III　レクリエーション支援理論（人間関係の形成とコミュニケーションの基礎）

4　　レクリエーション支援におけるコミュニケーション

5-①　対象者と支援者の信頼関係、及び信頼関係づくりの方法

5-②　良好な集団、及びレクリエーションを通した良好な集団づくり

6-①　集団内のコミュニケーションの促進

6-②　自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力

6-③　やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み・成功体験を支え会う対象者の関わり合い

IV　レクリエーション支援のプログラム

7-①リスクマネジメントの方法

7-②　プログラムの立案方法

II　レクリエーション活動の習得

8　対象に合わせたアレンジ方法について

| | |
|---|---|
| ・　アクティビティの体験<br>９　ニュースポーツの実践①<br>１０　ニュースポーツの実践②<br>１１　レクリエーション支援のための様々な活動①<br>１２　レクリエーション支援のための様々な活動②<br>１３　レクリエーション支援のための様々な活動③<br>１４　レクリエーション支援のための様々な活動④<br>１５　レクリエーション支援のための様々な活動⑤ | |
| [ 使用テキスト ]<br>「楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会<br>[ 参考文献 ]<br>「レクリエーション支援の基礎」日本レクリエーション協会 | [ 単位認定の方法及び基準 ]<br>１　３分の２以上の出席を要す。<br>２　出席率･課題提出･授業態度を総合的に判断し、６０点以上であること。<br><br>上記の者に単位を認定する。 |

# 授　業　概　要

| 科目名 | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 日本語表現法I | 講義 | 渡邉　有紀恵 |

| 授業回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| １５回 | ３０時間（２単位） | １学年・前期 | 必修科目 |

［授業の目的・ねらい］

本授業では、日本語での文章作成のために必要な作文作法や言い換え等の技術を学ぶ。毎回、新聞記事に対する意見文を書くとともに、後半ではインタビューの報告書を作成する。それらの活動を通じ、基礎的な漢字・語彙・表記・表現の知識を身につけ、その運用能力を養成する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・日本語の作文作法を理解し、正しく運用することができる。
・話しことばと書きことばの違いを理解し、適切な変換ができる。
・語彙や文法を適切に使いながら、文章を作成することができる。
・敬語表現を正しく使えるようになる。

［授業計画］

コマ数

１　作文のルール–自己紹介文を書く
２　日本語の文字・表記を考える
３　文・段落の接続関係、文体を使いわける
４　書きことばで書く
５　ことばを言い換える①–名詞化
６　ことばを言い換える②–和語と漢語
７　ことばを言い換える③–外来語
８　オノマトペ
９　慣用句
１０　文章の構成
１１　説明する
１２　インタビューをする–質問の仕方、メモの取り方
１３　インタビューをする–メモをまとめる、相互評価
１４　総まとめ
１５　終講試験　（解答・解説）

［使用テキスト・参考文献］

**テキスト**：授業中に指示する。

**参考文献**

松浦照子編(2017)『実践　日本語表現』
ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-1174-5
鎌田美千子・仁科浩美著(2014)『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ練習』
ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ　ISBN978-4-88319-681-4

［単位認定の方法及び基準］

終講試験　50%
課題　30%
授業態度　20%
以上で評価する。

# 授　業　概　要

| 科目名 | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 日本語表現法II | 講義 | 渡邉　有紀恵 |

| 授業回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| ８回 | １５時間（１単位） | １学年・後期 | 必修科目 |

［授業の目的・ねらい］

本授業では、日本語の表現力を向上させることを目的とした授業を行う。前半では小テスト形式の漢字・語彙プリントに取り組む。後半では、様々な媒体を通して見聞きした事柄について、客観的に説明した上で自身の意見を的確に述べるための練習を行う。適切な日本語表現を用いて文章を書く能力を育成する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・見聞きしたり読んだりした事柄について、正しくわかりやすく書くことができる。
・書きことばと話しことばを区別して使い分けることができる。
・適切にお礼状などの手紙が書けるようになる。

［授業計画］

コマ数

1　出来事を説明する
2　自国の文化・伝統行事・習慣を説明する
3　人物を説明する
4　場面を描写する①
5　場面を描写する②
6　手紙を書く①（手紙の構成、話しことばの敬語）
7　手紙を書く②（お礼状）
8　終講試験　（解答・解説）

［使用テキスト・参考文献］

**テキスト**：授業中に指示する。

**参考文献**：授業中に指示する。

［単位認定の方法及び基準］

終講試験　50％
課題　　30％
授業態度　20％
以上で評価する。

# 授　業　概　要

| 科目名 | 授業の種類 | 授業担当 |
|---|---|---|
| 多文化共生 | 講義 | 木村ひとみ（実務経験者）<br>・専任教員 |

| 授業回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| １５回 | ３０時間（２単位） | １学年・通年 | 必修 |

[ 授業の目的・ねらい ]

１　多様性のある社会とは何か、多様な人々が共生するにはどのようなことが求められるのか考える。

２　グループワークや体験学習を行い、多様な背景や異なる文化をもつ人々と対話するコミュニケーション能力を身につける。

[ 授業終了時の達成課題（到達目標） ]

１　多様性理解の態度を身につける。

２　異なる文化をもつ人々と共生する能力を身につける。

[ 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 ]

コマ数

１　地域社会の多文化

２　多様性の理解

３　多様性の理解

４　日本文化の理解

５　日本文化の理解

６　異文化の理解

７　異文化の理解

８　イベント活動の計画

９　イベント活動の計画

１０　イベント活動の計画

１１　イベント活動

１２　イベント活動

１３　イベント活動

１４　イベント活動

１５　活動報告とまとめ

| [ 使用テキスト・参考文献 ] | [ 単位認定の方法及び基準 ] |
|---|---|
| 楽しさをとおした心の元気づくり<br>レクリエーション支援の理論と方法 | 規程の３分の２以上の出席であり、授業中の課題の取り組みの態度、課題レポートによる評価 |

| | |
|---|---|
| 日本レクリエーション協会 | とする。 |

# 授　業　概　要

| 科目名 | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| チームマネジメント | 講義・演習 | 木村ひとみ・入澤亨<br>福田直巳・矢代剛<br>（実務経験者） |

| 授業回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| １５回 | ３０時間（２単位） | ２学年・後期 | 必修科目 |

［授業の目的・ねらい］

介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を身につけ、チームで働くための能力を養う。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・介護サービスの特性を理解できる。

・メンバーシップについて理解し、チームメンバーとしての基本姿勢を身につける。

・介護実践にけるチームケアの基本を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

介護サービスの特性　　＜木村　ひとみ＞

1　ヒューマンサービスの特性

2　介護現場でのチームマネジメント

3　介護福祉士の役割

チーム運営の基本　　＜入澤亨＞

4　介護実践におけるチームの機能と役割

5　グループ・ダイナミクス

6　リーダーシップ、フォロワーシップ

7　リーダーの機能と役割

8　情報共有の必要性

9　情報共有と課題の解決

人材育成・自己研鑽

１０　介護福祉士としてのキャリアデザイン　　＜福田直巳＞

１１　OJT と OFF-JT

１２　スーパービジョン

組織と運営管理

１３　福祉サービスの組織の機能と役割　　＜矢代剛＞

１４　コンプライアンスの遵守

１５　終講試験

［使用テキスト・参考文献］

最新　介護福祉士養成講座　2

「人間の理解」第２版　中央法規出版

［単位認定の方法及び基準］

規程の３分の２以上の出席であり、試験で 60 点以上の者に単位を認定する。

# 授　業　概　要

| 科目名 | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 社会の理解 | 講義 | 米山　宗久・山本　宏美<br>佐藤　正幸（実務経験者） |

| 授業回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| ３０回 | ６０時間（４単位） | ２学年・通年 | 必修科目 |

[ 授業の目的・ねらい ]

１　個人・家族・社会・組織・地域社会の概念を理解し、その上で地域社会における生活支援について学ぶ。

２　地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度について学ぶ。

[ 授業終了時の達成課題（到達目標） ]

１　生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助について理解できる。

２　地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方やしくみについて理解できる。

３　社会保障制度の基本的な考え方としくみについて理解できる。

４　高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について基礎的な知識を習得できる。

[ 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 ]

コマ数

<u>社会と生活のしくみ</u>　＜佐藤　正幸　＞

１　生活の基本機能と家族

２　社会・組織の機能と役割

３　地域・地域社会

<u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u>

４　地域福祉の考え方

５　地域共生社会と地域包括ケア

<u>介護実践に関連する諸制度</u>

６　生活保護法

７　介護実践に関する諸制度

８　試験

<u>高齢者保健福祉と介護保険制度</u>　＜米山　宗久＞

９　高齢者福祉の動向

１０　高齢者福祉法制度の変遷

１１　高齢者保健福祉に関連する法体系

１２　介護保険制度のしくみの基本的理解

| | |
|---|---|
| １３　介護保険制度のしくみの基本的理解<br>１４　地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会の実現に向けて<br>１５　試験<br>障害者保健福祉と障害者総合支援制度　＜山本　宏美＞<br>１６　障害者の法的定義<br>１７　障害者福祉の現状<br>１８　障害者福祉の動向<br>１９　障害者保健福祉に関連する法体系<br>２０　障害者総合支援制度の理解<br>２１　障害者総合支援制度の理解<br>２２　試験<br><br>社会保障制度　＜佐藤　正幸＞<br>２３　社会保障の意義と機能<br>２４　日本の社会保障制度の考え方<br>２５　日本の社会保障制度のしくみ<br>２６　日本の社会保障制度のしくみ<br>２７　年金保険<br>２８　雇用保険<br>２９　現代社会と社会保障制度<br>３０　試験 | |
| [ 使用テキスト・参考文献 ]<br>最新　介護福祉士養成講座　２<br>「社会の理解」　中央法規出版 | [ 単位認定の方法及び基準 ]<br>規程の 3 分の 2 以上の出席であり、レポートおよび試験で 60 点以上の者に単位を認定する。 |

# 授　業　概　要

| 科目名 | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 多文化共生 | 講義 | 郷堀ヨゼフ・専任教員<br>（実務経験者） |

| 授業回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| １５回 | ３０時間（２単位） | ２学年・通年 | 必修 |

［授業の目的・ねらい］

１　多様性のある社会とは何か、多様な人々が共生するにはどのようなことが求められるのか考える。

２　グループワークや地域活動を行い、多様な背景や異なる文化をもつ人々と対話するコミュニケーション能力を身につける。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　多様性理解の態度を身につける。

２　異なる文化をもつ人々と共生する能力を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１　異文化の理解　文化）　＜郷堀　ヨゼフ＞

２　異文化の理解（価値観）

３　日本文化の理解　＜佐藤　正幸＞

４　日本文化の理解

５　日本文化の理解

６　多様性の理解

７　多様性の理解

８　自己表現と社会貢献

９　地域活動の計画

１０　地域活動の計画

１１　地域活動

１２　地域活動

１３　地域活動

１４　地域活動

１５　活動報告とまとめ

［使用テキスト・参考文献］

テキストなし

［単位認定の方法及び基準］

規程の３分の２以上の出席であり、授業中の課題の取り組みの態度、課題レポートによる評価とする。